

ヌサアン（祭殿）

ヌサアン（祭殿）とは祈りを捧げる神聖な場所であり、通常は神窓（ロルンブヤラ）の東側に位置し、ほぼすべてのアイヌ人の住宅の屋外に見られます。さらにアイヌ人の町や村では、その地域のための大きなヌサアンが存在していることもあります。これらの祭殿はイオマンテと呼ばれる熊やシマフクロウなどの大切なカムイの魂を神の世界に帰す大きな儀式や日々の小さなお祈りに使用されています。ヌサアンにはイナウ（柳やみずきの樹皮を削って作る祭具）を並べたシンプルなものや、ござ、植物や頭蓋骨、食物や貴重な供え物などで飾られた複雑なものがあります。

ヌサアンは異なる神（カムイ）を表す新品のイナウで定期的に飾り付けられます。アイヌ文化では、熊やフクロウなどのカムイの直接的かつリアルな描写は避けられ、神の注意を惹くための抽象的な方法や象徴的な模様で尊敬の意を表すことが好まれます。アイヌの人々は、直接的すぎる姿により神が混乱し、イメージに囚われることで神の世界に帰れなくなってしまうと考えるのです。

火は伝統的なアイヌの生活様式にとって非常に大切なものであり、すべての儀式はフチ（火の神）に祈りを捧げることから始まります。そして、捧げものとなるイナウ、食事、飲み物が作られ、他のカムイにも祈りを捧げます。お清めとして束にした竹の葉やヨモギなどの薬草や植物を燃やし、音楽や踊りが伴う儀式もしばしば行われます。